

国際アーサー王学会日本支部会報

Société Internationale Arthurienne Section Japonaise

目次

I. 支部長（会長）就任に当たって	1
II. 2008 年度年次大会報告	1
年次大会プログラム	1
総会議事録	2
大会発表要旨	3
III. 新幹事会役員について	5
IV. 訃報	5
V. 文献情報	6
独文学	6
仏文学	7
英文学	13
VI. 学会・講演会のお知らせ	17
VII. 2009 年度年次大会のお知らせ	18
VIII. 会計からのお願い	18
IX. 会員名簿に関するお願い	18
X. 研究発表・シンポジウム企画募集	18

I. 支部長(会長)就任に当たって  
高宮利行

図らずも2度目の会長を仰せつかりました。微力を尽くす所存ですので、今後3年間（いえ実質的には2年間）どうぞよろしくお願い申し上げます。わが国における中世ヨーロッパの言語や文学、歴史の研究は、昨今の大学制度改革や外部資金導入などの忙しさのために、かなり阻害されているような感想を抱きます。また若手の専任としての就職先も次第に狭くなっており心が痛みます。その一方で、外国で博士号を取得して活躍する研究者の数も増えてきました。私たちは、泣き言を言う前に、学問の女神に微笑んでもらうよう精進する必要があります。2011年のブリストルにおける国際アーサー王学会にも多くの研究発表者がわが国から参加されますよう期待しております。

II. 2008 年度年次大会報告

日本支部の2008年度年次大会は、下記の通り滞りなく開催されました。ご参加いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

[日時] 2008年12月20日(土) 午後1時より

[場所] 白百合女子大学仙川キャンパス  
2号館2007番教室

[大会費] 1,000円(学生無料)

[懇親会費] 5,000円(学生4,000円)

年次大会プログラム

開会(13:00)

開会の辞 会長 原野 昇(広島大学)

第一部 研究発表(13:45~14:35)

「2008年レンヌ国際大会でテーマとなった研究を中心に」

①「Arthurian Geography: キャクストーンによる *Le Morte D'Arthur* 第二話の書き換え問題: 地名の表現からの考察」

(司会) 春田節子(白百合女子大学)

(発表者) 高木眞佐子(英文・杏林大学)

②「日仏中世文学における異界のイメージ——特にレブルトンと日本の場合を中心に」

(司会) 不破有理(慶應義塾大学)

(発表者) 井上富江(仏文・別府大学)

③「レンヌ学会における研究発表」及び「『国際アーサー王学会』の『日本支部』の成立」

(司会) 不破 有理

(発表者) 佐佐木茂美(仏文・明星大学)

第二部 講演(14:50~16:00)

「テニソン以降——フランス中世研究への途」

(講師) 松原秀一(慶應義塾大学名誉教授)

(司会) 原野 昇

## 支部総会(16:20～)

(議長) 会長 原野 昇

## 懇親会(18:00～)

(場所) **Bistro de Herb**

春に大会開催メーリングリストを立ち上げたのを皮切りに、秋には懇親会会場候補 **Bistro de Herb** で試食会を開いて場所を検討して下さるなど、開催校の篠田勝英先生には、年間を通じて実に細やかで素晴らしい御配慮をいただきました。当日の運営は、春田節子先生と、開催校の大学院生でかつアーサー王学会会員のお二人がバックアップしてくれました。また、学部生の方々もアルバイトとして受付を担当してくれました。皆様の素晴らしいチームワークにより大会は成功裡に幕を閉じ、**Bistro de Herb** にて開催された懇親会も、会場に入りきれないかと思うほど大盛況となりました。松原先生の御講演を機会にお集まりいただいた皆様ほか、多くの方々の暖かいご支援とご協力に感謝いたします。

(2008 年度事務局)

## 総会議事録

### 報告事項

#### ①2008 年度の活動について

2008 年度には 7 月 15～20 日にかけて第 22 回国際大会がレンヌにて開催された。活動の詳細は 2008 年度ニューズレター掲載のため割愛。第 23 回大会は英国ブリストルにて 2011 年 7 月 25～30 日。また会誌である *Bibliographical Bulletin* のデジタル化について報告があった。

#### ②新入会員の承認・報告

小関ラファエル章氏

(デジタルハリウッド大学大学院)

田口まゆみ氏

(英文／大阪産業大学人間環境学部)

#### ③役員改選について

原野会長の任期は 2006 年～2008 年 (12 月 31 日)。よって、国際アーサー王学会日本支部規約、及び国際アーサー王学会日本支部役員選出規則に則って、2009～2011 年を任期とする次期会長選出選挙が以下のように行われた。

(1) 選挙管理委員会を 2008 年 1 月設置  
多ヶ谷有子氏 (委員長)

西川正二氏

横山安由美氏

(2) 選挙管理委員会が第一回 会長候補推薦投票を実施 (開票日 9 月 27 日)

(3) 開票の結果を受けて臨時幹事会を開催。幹事会推薦を高宮利行氏、他 5 名を会員推薦候補者に決定

(4) 選挙管理委員会が第二回 会長選出投票を実施 (開票日 11 月 1 日)

(5) 開票の結果を受けて、臨時幹事会を開催。次期日本支部会長に高宮利行氏 (英文／慶應義塾大学) の選出が決定。会長任期は 2009 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日。

上記の報告を受けて次期会長より挨拶が行われた。引き続き副会長や事務局長など、主な次期幹事会メンバーについての報告が次期会長より行われた。

### 協議事項

#### ①2008 年度会計報告

会計より 2008 年度の会計収支決算報告が報告され会員の承認を受けた。

〈収入〉

項目	金額
大会費	37,000
展示料	20,000
懇親会会費	112,000
会費 (他年度含む)	193,000
入会金	9,000
寄付金	11,000
利子	247
小計	382,247
前年度繰越金	159,051
計	541,298

〈支出〉

項目	金額
懇親会費用	100,000
大会アルバイト料	10,000
本部への学会誌支払	*197,597
郵便局振込手数料	2,500
事務・雑費・郵便費	31,128
学会誌配布費	44,000
小計	385,225

翌年度繰越金	156,073
計	541,298

\*\$21×94(人分)=\$1,974

\$1974=¥197,597 (\$1=¥100.10)

続いて 2009 年度予算が報告され会員の承認を受けた。

〈収入〉

項目	金額
懇親会会費	200,000
大会費	35,000
会費	230,000
入会金	6,000
展示料	20,000
小計	491,000
前年度繰越金	156,073
計	647,073

〈支出〉

項目	金額
懇親会費用	200,000
大会経費・アルバイト料	25,000
本部への学会誌支払	200,000
銀行手数料	2,500
事務・雑費・郵便費	30,000
学会誌配布費	50,000
小計	507,500
翌年度繰越金	139,573
計	647,073

## ②年会費未納者の扱いについて

日本支部の財政状況の改善、及び *Bulletin* 残部削減のための措置として、支部規約第 6 条にある「会員が 3 年間、所定の会費を納入しない場合は、会員の資格を停止される」という条文につき、「停止」を実質的「退会」として扱い、*Bulletin* 送付を取りやめる案が事務局より出された。現在のビュルタン一部当たりの値段、郵送料などについて質疑が行われたのち、提案通り了承された。ただし、やむを得ない事情による未納の場合など、様々な例外もありえる。またこの形の「退会者」を会報に記載するか否かなど、各事例への対処については新事務局の懸案事項となった。

## 大会発表要旨

### ①「Arthurian Geography: キャクストンによる *Le Morte D'Arthur* 第二話の書き換え問題——地名の表現からの考察」 高木眞佐子

本発表ではウィンチェスター版 *Le Morte Darthur* とキャクストン版 *Le Morte Darthur* (1485)、そしてキャクストンが書き換えに当たって参照したと思われる *Chronicles of England* (1480/82) 三者における「アーサー王によるローマ皇帝ルシウスの征服」に出てくる地名を比較し、キャクストンがマロリーのテクストを書き換えるに当たって配慮した側面を考察した。

アーサー王が大陸に渡って巨人退治をする場面を、マロリーは聖マイケル山としているが、*Chronicles of England* においては聖ベルナルド山となっている。ここではキャクストンは両者の差異を埋める努力はしていない。*Chronicles of England* の下敷きとなった *prose Brut* の初期の写本においては *Geoffrey of Monmouth* や *Laȝamon* に近い聖マイケル (ミシェル) 山という記述も確認されており、キャクストンが、マロリーの記述にある聖マイケル山の方がより **authentic** な読みだと知りつつ採用した可能性は否定できない。

ルシウスを倒した後、アーサーが次々と進軍する地方の名前は、ウィンチェスター版には具体的だが、キャクストン版では省略されている。これは恣意的な省略ではなく、その後続く「ローマ帝国の征服」というマロリーの記述と、「ローマに実際には辿りつけず帰ってきた」という *Chronicles of England* の相反する記述双方を意識したキャクストンの苦肉の策である。歴史的記述に従うならば、マロリーによるローマ征服とアーサーの戴冠こそが書き換えられねばならないはずだった。しかしキャクストンはそこを敢えて、マロリーの記述どおりにすることを選んだ。前書きに「**but for to give faith and belief that all is true that is contained herein, ye be at your liberty**」と記さねばならなくなった所以である。ローマ遠征の直前に姿を消す地名とは、ここから先はフィクションの世

界とキャクストンが合図しているようなものだ。

全体として、キャクストン版はマロリーの挿話の骨格を変えずに、*Chronicles of England* をより意識したものになっている。*Chronicles of England* とて、必ずしも **authentic** な読み物と認識されていたわけではないが、3 者の地名比較を通じて浮かび上がってくるのは、キャクストン版制作に当たって、もっとも **authentic** なテキストとは何かを追求しそれを実現しようとする編集者の姿である。

## ②「日仏中世文学における異界のイメージとその変容——レ ブルトンと日本の場合」 井上富江

遠い日本とフランスだが、実は中世の文学に非常に似通った話があるのはあまり知られていない。とりわけ今回は会場がブルターニュということもあり、ぜひレ ブルトンの幾つかの話と日本では非常によく知られた話を比較してみることにした。次の 3 点に絞って発表した。

- 1 異界の場所
- 2 異界へと導くもの
- 3 異界の描写

### 1 異界の場所

まず異界は一体どこにあり、どのように主人公がたどり着いたのであろうか。まずは日本の場合からその源泉をたどり、映像のある部分はそれを見せた。にまず西洋のお話レ ブルトンと似通ったお話が日本の文学の中に現れるのは、ほぼ同じ時代にあらわされた日本書紀、万葉集、丹後風土記まで遡ることができる。この部分の映像を見せながらみていった。

その結果日本の場合もフランスと同様に水のそば（実際には海中または海底の宮殿の中）にあることがわかる。ただ日本の場合もフランスと同様に女性の方が現世の方に現れるお話があり、この場合は日本の場合ははっきりと月に異界があることが示される。フランスの場合は女性が自由に現世にいる主人公（ランバル）に会いに来るという設定で、人々は多分ギンガモールと同様な女性であろうと想像するであろう。

### 2 異界へと導くもの

日本の場合は、亀（または変身した女性）が、フランスの場合は白い鹿、または猪が主人公を

異界へと導く。日本の場合、もう一つ別の「蓬莱山」の場合は、嵐が主人公を異界へと導く。ここで表わされる蓬莱山のイメージは中国での伝承を受け継ぐもので、フランスの場合がケルトのイメージを受け継ぐのと同様に、日本の異界のイメージには中国の影響が色濃く残されていることがわかるであろう。

### 3 異界の描写

日本の異界のイメージは、蓬莱山に一番古い文献以上に詳しい描写があるのでそれを引用した。日本もフランスも金銀宝石に飾られた華やかなイメージは共通で、美しい異界が人々を魅了した様が伺える。その後日本では室町時代以後様々な変容が行われ、今では子供でも知っているお伽噺になったが、フランスでは別の物語が盛んに語られるようになったせいか、変化なく今あまり語らなくなってしまう。

## ③「レンヌ学会における研究発表」及び「『国際アーサー王学会』の『日本支部』の成立」 佐佐木茂美

「研究発表」(“*Glatissement de la « beste » et de son « chaceor » dans le Roman de Tristan en prose* (第 22 回「国際アーサー王学会」総会研究発表)) 報告に続いて、同じ開催地において 25 年前 (1984/8) の「第 14 回国際学会」総会での「日本支部」成立の経緯を、同大会に出席、その前後 20 年の学会関係者 (corresponding secretary および secretary) として概略を述べた。

1 1974 年「学会」の創立者／初代／名誉会長より協力要請と 1975 年『学会誌』(*Bulletin*) に日本の研究のエントリイ。

「国際アーサー王学会」の創立を提唱、初代／名誉会長を務めたジャン・フラピエ (*Jean Frappier*) (ソルボンヌに於ける指導教授であった) から佐佐木茂美に日本におけるアーサー王関係の研究の書誌作成、『学会誌』のための協力要請がある (1974/8) (以下を参照。『学会誌』N46(1994), p.358-360; 『Ph. メナール記念論文集』t.2, 1998, p.1203; 支部『会報』N20 (2007), p.6)。翌年の国際学会 (於エクセター) 参加、佐佐木の日本関係 CS の会長推薦、委員会、総会で承認を経て、作成した『佐藤輝

夫教授記念論文集』(Mélanges Teruo Sato (1973))の寄稿論稿(フラピエ他のアーサー関係)4のレジюме、総数10が、国別JAPANとして初めて『学会誌』N27(1975)p.138-140に収録される。同時に掲載の邦語論文は佐佐木の苦渋の交渉結果であった(「学会」は研究の欧文論文——国際的「貢献」——を対象とする)。

2 1984年レンヌ学会(会長シャルル・フォーロン(Charles Foulon)教授)に「日本人会員名簿」提出。

「名簿」提出が新村猛教授(仏文)によりなされる(この時点でCSは一切知らされていない)。『学会誌』N36(1984)p.273 et 277は30名が提示されたとある(これは当時の会員実数の3倍増であった)。「アーサー王素材」研究とは無関係の、非会員による、当人に諮らずしての支部申請および名簿提出が学会後に判明して(既に前総会(於グラスゴー、1981)でかかる事態は発生、非会員、非専門(英文)よりの挙手一件)難航、「一連の所作」にCSは「弁護」と事態收拾の苦境に立たされ、その上での「日本支部」見切り発車、今日に至る(Ch.フォーロン、N.レーシー、新村猛の書簡等の資料をも参照している)。

講演「テニソン以降——フランス中世研究への途」

松原秀一

「日本でのフランス中世文学は英語を介して先ず知られた。古典語、フランス語に堪能であった前田長太(越嶺)はレオン・ゴウティエの*La Chevalerie*に依って『西洋武士道』を著している。ウォルター・ペイター研究で知られる田部重治『中世欧羅巴文学史』前史と云え、昭和に入って、佐藤輝夫、鈴木信太郎両氏のフランス留学からが本格的な中世研究の始まりと云えよう。第二次大戦直前の有永弘人氏の留学辺りから刊本の元となった写本が扱われるようになり国際学会への参加の途が拓かれたと云えよう。」

(2008年大会プログラムより)

松原先生による御講演は数年前から幹事会としての希望であったが、先生ご自身のさまざま

なご都合から、なかなか実現が叶わなかった。ようやくの今回の運びに、主催者の喜びもひとしおである。ご講演では出版まもない『中世イギリス文学入門——研究と文献案内』(雄松堂、2008)をわざわざお手元に置かれ最近の日本の研究の動向に言及された。また時には研究者のはしくれとして耳の痛い話もしてくださった。学部での「仏文学史」の講義と少しも変わらない松原先生の軽やかで引き込まれるような魅力に、あつという間に過ぎた1時間余りであった。

(2008年度事務局)

### Ⅲ. 新幹事会役員について

上記のとおり2008年度支部総会において任命された高宮新会長の指名により、最終的に決定した2009年～2011年の幹事会新役員は以下の通りです。

会長(日本支部支部長)

高宮利行(英文学/慶應義塾大学名誉教授)

副会長(副支部長)

篠田勝英(仏文学/白百合女子大学)

幹事(庶務)・事務局長

高橋 勇(英文学/慶應義塾大学文学部)

幹事(会計)

多ヶ谷有子(英文学/関東学院大学文学部)

幹事(書誌)・英文担当書誌

西川正二(英文学/慶應義塾大学商学部)

仏文担当書誌

小沼義雄(仏文学/ストラスブール大学大学院)

独文担当書誌

渡邊徳明(独文学/日本大学松戸歯学部)

### Ⅳ. 訃報

デレク・ブルーア(Derek Brewer)教授

(1923年7月13日—2008年10月23日)

2008年度日本支部会報では「中世研究者Derek Brewer先生のご夫人 Elisabeth Brewer」女史のご訃報をお伝えしましたが、会報発行直後に今度はブルーア教授ご本人がご夫人のあとを追うように逝去されました。英国の各媒体に追悼文が寄せられ、日本でも朝日新聞2009年1月23日付夕刊の「惜別」欄でその人となり

紹介されています。日本中世英語英文学会第 会長や向井毅氏らによって企画されています。  
25 回大会では後述のとおり (17 頁参照) ブル  
ーア教授の業績を偲ぶシンポジウムが高宮利行

## V. 文献情報

### 独文学

(書誌担当：渡邊徳明／調査・編集協力：林邦彦)

#### 〈研究(雑誌・論文集等)〉

奥田敏広 「この殿堂はあなたの王国」——ヴァーグナーの『タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦』における芸術家像 京都大学人間・環境学研究所ドイツ語部会『ドイツ文学研究』報告第 52 号(2007 年 3 月) 一頁—三二頁(縦書き).

尾野照治 ドイツ中世のイタリア系教育詩人 **Thomasin** の学識 京都大学人間・環境学研究所ドイツ語部会『ドイツ文学研究』報告第 52 号(2007 年 3 月) 1-29 頁.

尾野照治 ドイツ中世盛期の **reht** 「法・正義」への信仰 京都大学人間・環境学研究所ドイツ語部会『ドイツ文学研究』報告第 53 号(2008 年 3 月) 1-24 頁.

武市修 **IVG** 紹介と私の発表計画 関西大学独逸文学会『独逸文学』53 号(2009 年 3 月) 87-92 頁.

平井敏雄 古高ドイツ語訳 **Isidor** における,代名詞による斜格補足語の表示 東北ドイツ文学会・日本独文学会東北支部「東北ドイツ文学研究」第 51 号(2008 年 7 月) 105—121 頁.

嶋崎啓 中高ドイツ語『イーウェイン』における他・再帰動詞と他・自動詞 東北ドイツ文学会・日本独文学会東北支部「東北ドイツ文学研究」第 51 号(2008 年 7 月) 123—145 頁.

**ISHIKAWA, Eisaku**(石川栄作) : **Hohe Minne Siegfrieds im Nibelungenlied und dynastische Liebe des Kaisers Takakura in der Heike-Geschichte** 徳島大学総合科学部『言語文化研究』第 15 巻(2007 年 12 月) 15-34 頁.

**M.ALBRECHT, Irmtraud · KIUCHI, Motomi**(木内基実) **Notker der Deutsche. Boetius: De consolatione Philosophiae Buch I/II. Trost der Philosophie** 哲学の慰め(4) 獨協大学『ドイツ学研究』第 58 号 (2007 年 9 月) 97—139 頁.

**M.ALBRECHT, Irmtraud · KIUCHI, Motomi**(木内基実) **Notker der Deutsche. Boetius: De consolatione Philosophiae Buch I/II. Trost der Philosophie** 哲学の慰め(5) 獨協大学『ドイツ学研究』第 60 号(2008 年 9 月) 67—95 頁.

**M.ALBRECHT, Irmtraud · KIUCHI, Motomi**(木内基実) **Notker der Deutsche. Boetius: De consolatione Philosophiae Buch I/II. Trost der Philosophie** 哲学の慰め(6) 獨協大学『ドイツ学研究』第 61 号(2009 年 3 月) 1—29 頁.

石井道子 「指輪」の物語 — 文献学から見たトールキン — 早稲田大学創造理工学部 知財・産業社会政策領域/国際文化領域 人文社会科学研究会 『人文社会科学研究』No.49 (2009 年 3 月) 27—43 頁.

山本潤 写本伝承段階における「ニーベルンゲンの歌」と「哀歌」の受容 東京大学大学院・ドイツ語ドイツ文学研究会『詩・言語』第 67 号(2007 年 7 月) 1-25 頁.

渡邊徳明 『ヴォルムスの薔薇園』の裏切り者ヴィテゲ — ディートリヒ歴史叙事詩との関連から — 『慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語・ドイツ文学』第 44 号(2008 年 9 月) 79—106 頁.

## 仏文学

(書誌担当：小沼義雄)

### I〈中世フランス文学作品、及びその周辺〉

#### (1) 校訂版

Yorio OTAKA, Hideka FUKUI et Christine FERLAMPIN-ACHER, éd. *Le Roman d'Alexandre en prose [British Library, Royal 15. E. VI, fol. 2v-24v], avec une préface de Philippe MENARD, Osaka, Centre de la recherche interculturelle à l'Université Otemae, 2008, 2.vol, 2<sup>e</sup> édition corrigée.*

※ 大高順雄先生(大阪大学名誉教授)、福井秀加先生(大手前大学名誉教授)、Christine FERLAMPIN-ACHER先生(レンヌ第2大学教授、国際アーサー王学会現会長)の三氏による共同研究。第1巻は作品・写本の解説、言語研究、写本のカラー写真、校訂本文、固有名詞索引、語彙集からなる。第2巻はその日本語訳。Philippe MENARD先生(ソルボンヌ大学名誉教授)の序文を付す。

#### (2) 翻訳

クレチアン・ド・トロワ作(オウィディウスの原作による)『フィロメーナ(I)』(天沢退二郎訳)、『言語文化』(明治学院大学言語文化研究所)、26号、2009年、pp.106-129.

シシル『色彩の紋章』(伊藤亜紀、徳井淑子訳)、悠書館、2009年.

※ Sicile, *Blason des Couleurs*, Germain Rouze et Olivier Arnoullet, Lyon, 1528の邦訳・解説.

『トルバドゥールによる12世紀の哀悼歌(planh)の翻訳』(高名康文訳)、『福岡大学研究部論集』(人文科学編)、9巻3号、2009年、pp.11-21.

『ベレンガウドゥスの黙示録注解(Cambridge Trinity College R.16.2)』(大高順雄訳)、大手前大学交流文化研究所、2009年.

※ 13世紀にイングランドで成立したCambridge Trinity College所蔵写本R.16.2『ヨハネの黙示録』にはベレンガウドゥス(Berengaudus)に帰せられるラテン語の注解のアングロ・ノルマン語による要約が記入されている。本書はこの要約を邦訳し、聖書の各部分に感応させたものである。[紹介文より]

ラブレール『パンタグリユエルーガルガンチュアとパンタグリユエル 2—』(宮下史朗訳)、筑摩書房、2006年(ちくま文庫).

※ ※付録として、ラブレールの種本である16世紀のアーサー王物語『ガルガンチュア大年代記』の新訳を含む。

ル=ブラース(アナートル)『ブルターニュー死の伝承—』(後平濤子訳)、藤原書店、2009年.

—『ブルターニュー幻想民話集』(見目誠訳)、国書刊行会、2009年.

『巴里幻想譯詩集』(日夏耿之介、矢野目源一、城左門訳)、国書刊行会、2008年.

※ 稀覯本として高値で売買されている矢野目源一の往年の名訳『戀人へおくる—仏蘭西中世詩人歌謡抄—』と『ヴィヨン詩抄』を完全収録。

*Elle courait le garou : Lycanthropes, hommes-ours, hommes-tigres : Une anthologie, textes réunis, présentés et annotés par Claude LECOUTEUX, Paris, José Corti, 2008 « collection Merveilleux n°36 ».*

※ 動物変身譚のアンソロジー。主としてヨーロッパの狼男を扱うが、篠田知和基先生による日本の狐女、渡邊浩司先生による中国の虎男・虎女に関する民話の仏訳を含む。

### II〈研究(単行本)〉

#### (1) 中世フランス文学研究、及びその周辺

荻野アンナ『ラブレールで元気になる』、みすず書房、2005年(理想の教室).

折井穂積『パニユルジュの剣—ラブレールとルネサンス文学の秘法—』、岩波書店、2009年.

佐々木敏光『ヴィヨンとその世界—ヴィヨンという「美しい牡」(芥川龍之介)がいた—』、沖積舎、2008年.

谷口勇『クローチェ美学から比較記号論まで—論文・小論集—』、而立書房、2006年.

※ 「『ジャウフレ物語』とアーサー王伝説」をはじめ、中世南仏文学に関する 6 篇の論考を含む。

中内克昌『アキテーヌ公ギヨーム九世—最古のトルヴァードールの人と作品—』、九州大学出版会、**2009 年**。

中山真彦『ロマンの原点を求めて—『源氏物語』、『トリスタンとイゾー』、『ペルスヴァルまたは聖杯物語』—』、水声社、2008 年。

根津由喜夫『夢のなかのビザンティウム—中世西欧の「他者」認識—』、昭和堂、**2009 年**。

※ 『ジラルール・ド・ルシヨン』、『シャルルマーニュ巡礼記』、『クリジェス』、『エラクル』についての論考を含む。

原野昇、水田英実、山代宏道、中尾佳行、地村彰之『中世ヨーロッパにおける笑い』、溪水社、**2008 年**。

—『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』、溪水社、**2009 年**。

原野昇、木俣元一『芸術のトポス』、岩波書店、**2009 年**（ヨーロッパの中世⑦）。

森本英夫『中世フランスの食—『料理指南』、『ヴィアンディエ』、『メナジエ・ド・パリ』—』、駿河台出版社、**2004 年**。

## (2) フランス語学・ロマンス語学

伊藤太吾『ロマンス語概論』、大学書林、**2007 年**。

佐野直子『オック語分類単語集』、大学書林、**2007 年**。

三宅徳嘉『辞書、この終わりなき書物』、みすず書房、**2006 年**。

## Ⅲ<研究(雑誌・紀要論文等)>

赤阪俊一「異性装から見た男と女(3)：異性装の女騎士」、『埼玉学園大学紀要』(人間学部篇)、**4 号**、**2004 年**、pp.49-61。

伊藤了子「『散文トリスタン物語』における COM」、『人文論究』(関西学院大学人文学会)、**58 号**、**2008 年**、pp.43-57。

INOUE Tomie, « Etude comparative des images médiévales de l'autre monde entre le Japon et la France : les lais bretons et les récits japonais », 『別府大学大学院紀要』、**11 号**、**2009 年**、pp.1-10。

今田良信「古フランス語における CVS 語順の平叙文の名詞主語と人称代名詞主語について(3) —13 世紀散文作品 *La Vie de saint Eustace* を資料体として—」、『ニダバ』(西日本言語学会)、**37 号**、**2008 年**、pp.39-47。

—「古フランス語における CVS 語順の平叙文の名詞主語と人称代名詞主語について(II) —13 世紀散文作品 *La Mort le roi Artu* を資料体として—」、『ロマンス語研究』、**40 号**、**2007 年**、pp.88-97。

UESUGI Kyoko, « L'identité de Brangien dans les romans français en vers de *Tristan* : étude lexicale sur *damoisele, meschine, magistre et nuirreture* », *Etude de langue et littérature françaises*, t.95, **2009**, pp.15-29。

植田裕志「パエトンの墜落—『寓意オウィディウス』におけるアレゴリーについて—」、『名古屋大学文学部研究論集』(文学)、**54 号**、**2008 年**、pp.53-68。

—「異界の騎士ペルレスヴォー」、『名古屋大学文学部研究論集』(文学)、**53 号**、**2007 年**、pp.15-35。

OGAWA Sadayoshi, « Remnant movement and stylistic fronting in Old French », 『人文学報』(首都大学東京都市教養学部人文・社会系)、**383 号**、**2007 年**、pp.1-39。

OKUBO Masami, « Antoine Vérard et la transmission des textes à la fin du Moyen Age : Première Partie. Les Prologues », *Romania*, t.125, **2007**, pp.434-480。

OTAKA Yorio, « Conjonctions de subordination dans le *Curial* d'Alain Chartier » in *Qui tant savoit*



*d'engin et d'art : Mélanges de philologie médiévale offerts à Gabriel BIANCIOTTO, textes réunis et publiés par Claudio GALDERISI et Jean MAURICE, Université de Poitiers, Centre d'Etudes Supérieures de Civilisation Médiévale, 2006, pp.333-358.*

- 小栗栖等「中世の言葉ともの—テーベ・トリスタン—」、『和歌山大学教育学部紀要』（人文科学）、59号、2009年、pp.63-70.
- 影山緑子「アラン・シャルチエの『四人讒罵問答』における「嘆き」(plainte)の変容」、『フランス文学語学研究』（早稲田大学大学院）、27号、2008年、pp.13-22.
- KAWAGUCHI Yuji, « Micro-variation de graphies dans *Treize Miracles de Notre-Dame* » in *Por s'onor croistre : Mélanges de langue et de littérature médiévales offerts à Pierre Kunstmann*, éd. Yvan G. LEPAGE et Christian MILAT, Ottawa, Les Editions David, 2008 « Voix savantes, 30 », pp.169-180.
- « Demonstratives in *De Bello Gallico* and *Li Fet des Romains* : A parallel corpus approach to Medieval translation » in *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*, edited by Yuji KAWAGUCHI, Toshihiro TAKAGAKI, Nobuo TOMIMORI and Yoichiro TSURUGA, Amsterdam, John Benjamins Publishing Company, 2007 « Usage-Based Linguistic Informatics.6 », pp.265-286.
- 川那部和恵「フランス15～16世紀の演劇状況—世俗劇の上演現場—」、『奈良教育大学紀要』（人文・社会科学）、57巻（1号）、2008年、pp.191-198.
- 「アルヌール・グレバンと世阿弥における「花」の聖と俗の関係性：『受難の聖史劇』と世阿弥の能芸論伝書の対比を通して」、『奈良教育大学紀要』（人文・社会科学）、53巻（1号）、2004年、pp.97-106.
- 黒岩卓「聖王の奇跡とその観衆—ルイ九世の生涯を主題とする二つの聖史劇—」、『アジア遊学』（特集・縁起の東西—聖人・奇跡・巡礼—）、勉誠出版、115号、2008年、pp.84-87.
- 「『受難の聖史劇』における詩作技巧：ユダを例に」、『フランス語フランス文学研究』、n° 93、2008年、pp.127-138.
- KUROIWA Taku, « Stratégie satirique dans les sotties imprimées : le cas de l'utilisation des octosyllabes à rimes plates » in *Le Théâtre polémique français 1450-1550*, sous la direction de Marie BOUHAIÏK-GIRONES, Jelle KOOPMANS, Katell LAVEANT, Rennes, Presses Universitaires de Rennes, 2008 « Interférences », pp.49-63.
- 篠田勝英「狩の獲物と動物の位階」 in 白百合女子大学言語・文学研究センター編、朝日由紀子責任編集『人間と動物をめぐるメタファー』、弘学社、2008年（アウリオン叢書06）、pp.65-79.
- 鈴木道子「トゥルバドゥール詩における「愛と無」のテーマ—ギエム九世の第IV歌を起点に—」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』（第2分冊）、51号、2006年、pp.115-126.
- 瀬戸直彦「封建制語彙の俗語抒情詩への転用—「若い領主」(ガウセルム・ファイディット)をめぐる—」、『早稲田大学大学院文学研究科紀要』（第2分冊）、53号、2007年、pp.85-99.
- 「真昼の悪魔とアッケディア」、『比較文学年誌』（早稲田大学比較文学研究室）、45号、2009年、pp.1-20.
- SETO Naohiko, « Le grondement de la montagne qui accouche d'une souris (Marcabru, PC 293, 19 : version courte) », *La France Latine*, t.148, 2009, pp.125-144.
- 高名康文「『テーベ物語』の服喪の嘆き(planctus)における死者への呼びかけ」、『福岡大学研究部論集』（人文科学編）、9巻3号、2009年、pp.1-10.
- TOKUI Yoshiko, « L'expression des plis dans la littérature médiévale : La « chemise ridée » dans les romans courtois des XII<sup>ème</sup> et XIII<sup>ème</sup> siècles », *Endymatologica*, n° 3, Peloponnesian Folklore Foudation, Athenes, 2009, pp.67-71.
- 原野昇「フランス中世文学にみる笑い—笑いの社会性—」 in 原野昇、水田英実、山代宏道、中尾佳行、地村彰之『中世ヨーロッパにおける笑い』、溪水社、2008年、pp.81-109.

—「フランス中世文学にみる伝統と刷新—トリスタン伝説と『狐物語』を例に—」 in 原野昇、水田英実、山代宏道、中尾佳行、地村彰之『中世ヨーロッパにおける伝統と刷新』、溪水社、2009年、pp.87-133.

HARANO Noboru, « De Renart à renard » in *Qui tant savoit d'engin et d'art : Mélanges de philologie médiévale offerts à Gabriel BIANCIOTTO*, textes réunis et publiés par Claudio GALDERISI et Jean MAURICE, Université de Poitiers, Centre d'Etudes Supérieures de Civilisation Médiévale, 2006, pp.151-158.

—, « Sous quel nom designer une partie du ms. H du *Roman de Renart* ? », *Reinardus : Yearbook of the International Reynard Society*, edited by Baudouin VAN DEN ABEELE and Paul WACKERS, Amsterdam, John Benjamins Publishing Company, vol.19, 2006, pp.75-82.

福本直之「*La vie de sainte Catherine de Sienna* —未発表断片写本について—」、『創価大学一般教育部論集』、33号、2009年、pp.139-165.

FUKUMOTO Naoyuki, « La Compagnie Renart », *Bulletin de l'Université Soka*, n° 33, 2009, pp.109-117.

—, « "Gariz est qui ses manches tient". *Le Roman de Renart*, éd. F-H-S, 10-508 » in *Qui tant savoit d'engin et d'art : Mélanges de philologie médiévale offerts à Gabriel BIANCIOTTO*, textes réunis et publiés par Claudio GALDERISI et Jean MAURICE, Université de Poitiers, Centre d'Etudes Supérieures de Civilisation Médiévale, 2006, pp.133-139.

—, « Comment "tenir ses manches" ? : Notes sur un passage du *Roman de Renart*, Br.I », 『広島大学フランス文学研究』、24号、2005年、pp.94-100.

前川久美子『ナポリ聖書絵本（フランス国立図書館フランス語写本 9561 番）のマリア・キリスト伝について』、『フランス文化研究』（獨協大学外国語学部）、40号、2009年、pp.35-81.

松原秀一「一神教と聖者崇拜」、『アジア遊学』（特集・縁起の東西—聖人・奇跡・巡礼—）、勉誠出版、115号、2008年、pp.76-82.

—「ブロワのパルトノプー」、『流域』、青山社、n° 62, hiver, 2007/2008, pp.18-27.

MATSUBARA Hideichi, « *La Canne qui murmure*, conte médiéval japonais, et *L'Ermite de La Fontaine* », *Travaux et Conférences de l'Institut des Hautes Etudes Japonaises*, Paris, Collège de France / Institut des Hautes Etudes Japonaises, 2008 (Diffusion : DE BOCCARD), pp.1-14.

松村剛「英語以外の中世語入門・古仏語」 in 『中世イギリス文学入門—研究と文献案内—』（高宮利行、松田隆美編）、雄松堂出版、2008年、pp.387-391.

MATSUMURA Takeshi, « Le traitement lexicographique de Guillaume de Digulleville » in *Guillaume de Digulleville : Les Pèlerinages allégoriques*, sous la direction de Frédéric DUVAL et Fabienne POMEL, Rennes, Presses Universitaires de Rennes, 2008 « Interférences », pp.231-252.

—, « Sur la Règle de saint Benoit traduite par Nicole : remarques lexicographiques » in *Por s'onor croistre : Mélanges de langue et de littérature médiévales offerts à Pierre Kunstmann*, éd. Yvan G. LEPAGE et Christian MILAT, Ottawa, Les Editions David, 2008 « Voix savantes, 30 », pp.239-244.

横山安由美『好きなものを与えるという約束—中世フランスにおける強制的贈与のモチーフ—』、『国際交流研究』（フェリス女学院大学）、11号、2009年、pp.57-90.

渡邊浩司「浦島伝説の日本語版とフランス語版の比較—中世フランスの短詩『ガンガモール』と8世紀の浦島譚」 in 吉村耕治編『現代の東西文化交流の行方 II—文化的葛藤を緩和する双方向思考—』、大阪教育図書、2009年、pp.41-79.

WATANABE Kôji, « La naissance des fantômes au Japon antique », *La grande oreille (la revue des arts de la parole)*, t.36, 2008, pp.29-34.

渡辺節夫「武勲詩に見るフランス中世王権像—初期ギョーム詩群の歴史的考察—」 in 渡辺節夫編『王の表象—文学と歴史・日本と西洋—』、山川出版社、2008年（青山学院大学総合研究所叢

書)、pp.147-190.

#### IV<書評>

風間泰子「〈書評〉フィリップ・ヴァルテール『中世の祝祭—伝説・神話・起源—』(渡邊浩司、渡邊裕美子訳)、原書房、2007年」、『日本アイルランド協会会報』、67号、2007年、p.2.

柏木隆夫「〈書評〉原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』、世界思想社、2007年」、『ふらんす』、2007年、5月号、p.70.

嘉瀬井整夫「〈書評〉原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』、世界思想社、2007年」、『奈良新聞』、2007年、3月18日.

蔵持不三也「〈書評〉フィリップ・ヴァルテール『中世の祝祭—伝説・神話・起源—』(渡邊浩司、渡邊裕美子訳)、原書房、2007年」、『週間読書人』、2694号、2007年、p.4.

原野昇「〈書評〉象徴史の確立—ミシェル・パストゥロー『ヨーロッパ中世象徴史』(篠田勝英訳)、白水社、2008年」、『流域』、青山社、n° 64, hiver, 2008/2009, pp.48-53.

MATSUMURA Takeshi, « Compte rendu : *Les Paraboles maistre Alain en françoys*, Edited by Tony HUNT, London, The Modern Humanities Research Association 2005 (MHRA Critical Texts, vol.2), VIII+178p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.125, 2009, pp.157-162.

—, « Compte rendu : Cinzia PAGNATELLI et Dominique GERNER (éd), *Les Traductions françaises des Otia imperialia de Gervais de Tilbury par Jean d'Antioche et Jean de Vignay*, Edition de la troisième partie, Genève, Droz, 2006 (Publications romanes et françaises, vol.237), 595p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.124, 2008, pp.146-148.

—, « Compte rendu : Ernstpeter RUHE (éd), *Sydrac le philosophe, Le livre de la fontaine de toutes sciences. Edition des enzyklopädischen Lehrdialogs aus dem XIII. Jahrhundert*, Wiesbaden, Reichert, 2000 (Wissensliteratur im Mittelalter, vol.34), XVI+490p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.124, 2008, pp.564-567.

—, « Compte rendu : *La Disme de Penitence by Jehan de Journi*, Edited by Glynn HESKETH, London, The Modern Humanities Research Association, 2006 (MHRA Critical Texts, vol.7), 206p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.124, 2008, pp.740-742.

—, « Compte rendu : Julia MARVIN, *The Oldest Anglo-Norman Prose Brut Chronicle. An Edition and Translation*, Woodbridge, The Boydell Press, 2006 (Medieval Chronicles, 4), x+442p. », *Revue de Linguistique romane*, t.71, 2007, pp.233-237.

—, « Compte rendu : Raoul de Houdenc, *La Vengeance Raguidel*, Edition critique par Gilles ROUSSINEAU, Genève, Droz, 2004 (Textes littéraires français, vol.561), 493p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.122, 2006, p.818.

—, « Compte rendu : Manessier, *La Troisième Continuation du Conte du Graal*, Edition bilingue, publication, traduction, présentation et notes par Marie-Noëlle TOURY, avec le texte édité par William ROACH, Paris, Champion, 2004 (Champion Classiques Moyen Age, vol.13), 707p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.122, 2006, pp.818-819.

—, « Compte rendu : Raoul de Houdenc, *Meraugis de Portlesgues : Roman arthurien du XIII<sup>e</sup> siècle, publié d'après le manuscrit de la Bibliothèque du Vatican*, Edition bilingue, publication, traduction, présentation et notes par Michelle SZKILNIK, Paris, Champion, 2004 (Champion Classiques Moyen Age, vol.12), 538p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.122, 2006, pp.821-822.

—, « Compte rendu : *Le Livre de Alixandre Empereur de Constantynoble et de Cligés son Filz : Roman en prose du XV<sup>e</sup> siècle*, Edition critique par Maria COLOMBO TIMELLI, Genève, Droz (Textes Littéraires Français, 567), 2004, 265p. », *Revue de Linguistique romane*, t.69, 2005, pp.584-585.

—, « Compte rendu : « *Le Roman de Tristan* » par Thomas suivi de « *La Folie Tristan* » de Berne et « *La Folie Tristan* » d'Oxford, traduction, présentation et notes d'Emmanuèle BAUMGARTNER et Ian SHORT avec les textes édités par Felix LECOY, Paris, Champion, 2003 (Champion

Classiques Moyen Age, vol.1), 447p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.121, 2005, pp.287-289.

- , « Compte rendu : Renaud de Beaujeu, *Le Bel Inconnu*, publié, présenté et annoté par Michèle PERRET, traduction de Michèle PERRET et Isabelle WEIL, Paris, Champion, 2003 (Champion Classiques Moyen Age, vol.4), XIX+417p. », *Zeitschrift für romanische Philologie*, t.121, 2005, pp.162-163.
- , « Compte rendu : *L'Histoire d'Erec en prose : roman du XV<sup>e</sup> siècle*, Edition critique par Maria COLOMBO TIMELLI, Genève, Droz, 2000 (Textes Littéraires Français, 524), 347p. », *Revue de Linguistique romane*, t.64, 2000, pp.605-607.
- , « Compte rendu : *Le Roman de Tristan en prose (version du manuscrit fr.757 de la Bibliothèque nationale de Paris)*, t.1, éd. par Joël BLANCHARD et Michel QUEREUIL, Paris, Champion, 1997 (CFMA, 123), 543p. », *Revue de Linguistique romane*, t.62, 1998, pp.298-302.
- , « Compte rendu : *L'Estoire del saint Graal*, éd. par Jean-Paul PONCEAU, Paris, Champion, 2.vol., 1997 (CFMA, 120-121), LIX+679p. », *Revue de Linguistique romane*, t.61, 1997, pp.586-592.

渡邊浩司「〈書評〉 Philippe WALTER, *La Fée Mélusine, le serpent et l'oiseau*, Paris, Imago, 2008」、  
『伝語伝文学研究』（中央大学伝語伝文学研究会）、41号、2009年、pp.225-238.

- 「〈書評〉唐澤一友『多民族の国イギリス—4つの切り口から英国史を知る』、春風社、2008年」、  
『中央評論』（中央大学）、60号2巻、2008年、p.128.

- ※ 黒岩卓氏による原野昇編『フランス中世文学を学ぶ人のために』の書評が、日本フランス語フランス文学会のホームページに掲載されている。「アルシーヴ」→「書評・新刊案内」と進み、2008年9月4日の記事へ。
- ※ 松村剛先生の書評については、数が膨大なため、2008年以前のものにはアーサー王関係を中心に担当者が取捨選択をしました。

## V〈研究書の日本語訳〉

(1) 中世フランス文学研究、及びその周辺

ヴァルテール（フィリップ）「万聖節、サウイン、ハロウィン」（渡邊浩司訳）in 篠田知和基編  
『神話・象徴・言語』、樂瑯書院、2008年、pp.625-632.

- 「西欧のキリスト教における生誕の星と死の星」（渡邊浩司訳）in 『星空のロマンス（比較神話学シンポジウム原稿集）』、比較神話学研究組織(GRMC)、2008年、pp.86-90.

—「『古事記』の稲羽のウサギ—医療の起源神話—」（渡邊浩司訳）in 門田眞知子編『比較神話から読み解く因幡の白兔神話の謎』、今井出版、2008年、pp.55-72.

- 「聖杯の夜に現れる輝く木」（渡邊浩司訳）in 『比較神話学シンポジウム「光の神話」原稿集（花園大学）』、比較神話学研究組織(GRMC)、2009年、pp.164-169.

ヴィナーヴァ（ウジェーヌ）『ベディエへのオマージュ』（小沼義雄訳）、『佛文論叢』（東京都立大学  
仏文研究室）、17号、2005年、pp.45-65.

シャルマソン（テレーズ）『フランス中世史年表—481~1515年—』（福本直之訳）、白水社、2007年  
（文庫クセジュ）.

スクリーチ（マイケル・A）『ラブレ—笑いと叡智のルネサンス—』（平野隆文訳）、白水社、  
2009年.

ズムトール（ポール）『世界の尺度—中世における空間の表象—』（鎌田博夫訳）、法政大学出版局、  
2006年（叢書・ユニベルシタス）.

パストゥロー（ミシェル）『ヨーロッパ中世象徴史』（篠田勝英訳）、白水社、2008年.

バフチン（ミハイル）『フランソワ・ラブレ—の作品と中世・ルネサンスの民衆文化』（杉里直人  
訳）in 『ミハイル・バフチン全著作（第7巻）』、水声社、2007年.

フェーヴル (リュシアン) 『ラブレの宗教—16 世紀における不信仰の問題—』 (高橋薫訳)、法政大学出版局、2003 年 (叢書・ユニベルシタス)。

マーウィン (W・S) 『吟遊詩人たちの南フランス—サンザシの花が愛を語るとき—』 (北沢格訳)、早川書房、2004 年 (ナショナルジオグラフィック・ディレクションズ)。

ラザール (マドレーヌ) 『リヨンのルイズ・ラベ—謎と情熱の生涯—』 (菅波和子訳)、水声社、2008 年。

(2) ロマンズ語学、フランス語史、文献学など

アウエルバッハ (エーリヒ) 『ロマンス語学・文学散歩』 (谷口伊兵衛訳)、而立書房、2007 年。

ヴァッレ (ヴァレリア・デッラ)、パトータ (ジュゼッペ) 『イタリア語の歴史—俗ラテン語から現代まで—』 (草皆伸子訳)、白水社、2008 年。

ヴァルテール (アンリエット) 『西欧言語の歴史』 (平野和彦訳)、藤原書店、2006 年。

オー (ジョン) 『古フランス語と近代英語の慣用法』 (大高順雄、和田章訳)、大手前大学交流文化研究所 (制作・丸善出版サービスセンター)、2008 年。

セグレ (チェザレ) 『テキストと文化モデル—文献学的記号論—』 (谷口伊兵衛訳)、而立書房、2008 年。

バーク (ピーター) 『近世ヨーロッパの言語と社会—印刷の発明からフランス革命まで—』 (原聖訳)、岩波書店、2009 年。

バッジオーニ (ダニエル) 『ヨーロッパの言語と国民』 (今井勉訳)、筑摩書房、2006 年。

パトータ (ジュゼッペ) 『イタリア語の起源—歴史文法入門—』 (岩倉具忠、橋本勝雄訳)、京都大学学術出版会、2007 年。

## VI<再版・新装復刻版>

川本茂雄 『フランス語統語法 (新装版)』、白水社、2007 年。

鈴木信太郎 『フランス詩法 (全二冊、新装復刻版)』、白水社、2008 年。

松原秀治 『フランス語の冠詞 (新装版)』、白水社、2008 年。

ヴァルトブルク (ヴァルター・フォン) 『フランス語の進化と構造 (新装版)』 (田島宏、高塚洋太郎、小方厚彦、矢島猷三訳)、白水社、2009 年。

## VII<映像作品>

「聖杯伝説 (エリック・ロメールコレクション)」、紀伊國屋書店、2007 年。

## 英文学

(書誌担当: 西川正二)

### <研究(単行本)>

河崎 征俊 『チョーサーの詩学—中世ヨーロッパの<伝統>とその<創造>』 (東京: 開文社出版、2008)、488pp

松田隆美・原田範行・高橋勇編著 『中世主義を超えて—イギリス中世の発明と受容』 (東京: 慶應義塾大学出版、2009)、426pp

(辺見葉子「プロセリアンド巡礼—「魔法の森」とケルティシズム」、1-26 松田隆美「ヴィジョンからアレゴリーへ—死後世界の断片化と中世の終わり」、27-51 不破有理「運命の車輪は止まれるか—ソートン写本における中英語作品『アーサーのワズリン湖奇譚』再考」、53-90 加藤誉子「トリストラムの「十字架」と写字生の「無駄線」—マロリーの『アーサー王の死』の本文批評再考」91-123 徳永聡子「印刷本を綴じる—イギリス初期印刷文化と合冊本としての『農業の書』」125-156 岩井茂昭「ゴシック・リヴァイヴァルとゴシック・サヴァイヴァル—ジャコビアン・ゴシック様式の大学建築をめぐって」157-184 中村哲子「アイルランド併合とゲールの伝統—スウィフトからエッジワースへ」、185-212 原田範行「ブラックフライアーズ・ブリッジにかけた夢—一八世紀イギリスにおける歴史認識と生活感覚、そして文書文化の諸ジャンル」、213-239 鈴木理恵子「中世イ

タリア共和主義—メアリー・シェリーの『ヴァルパーガ』とブラウニングの『ソルデロ』を巡って」, 241-266  
松川祐子「アメリカのシャロット姫たち— 一九世紀半ばから二〇世紀半ばの米国女性作家とアーサー王物語」,  
267-297 加藤千晶「ベアトリーチェの造型—D. G. ロセッティのダンテ『新生』翻訳再考」, 299-322 高木眞佐  
子「武勲詩の伝統から『カスピアン王子のつづえ』—ヘーシンボリカル・ナラティブと年代記」, 323-357 鈴木透  
「シェルターへの夢—ポストモダン社会における中世主義の末裔たち」, 359-382 高橋勇「「キャラ」の研究序  
説—『しゅごキャラ!』にみるプレモダンへの回帰」, 383-418)

高宮利行・松田隆美編『中世イギリス文学入門—研究と文献案内』(東京: 雄松堂, 2008), 454pp

(総論 中世イギリス文学の特色と歴史 松田隆美)

I. 主要な作家とジャンル

1 『ベーオウルフ』/ Beowulf Haruko Momma [山本伍紀訳] 2 古英語の世俗詩 / Old English Secular Poetry Haruko Momma [山本伍紀訳] 3 古英語の宗教詩 / Old English Religious Poetry Haruko Momma [伊藤盡訳] 4 古英語の散文 / Old English Prose 久保内端郎 5 初期中英語文学 / Early Middle English Literature John Scahill [小竹直訳] 6 『修道女の手引き』とその作品群 / Ancrene Wisse Group 和田葉子 7 キリスト教教化文学 / Literature of Religious Instruction 松田隆美 8 中英語の聖人伝 / Middle English Saints' Legends John Scahill [小竹直訳] 9 中英語の抒情詩と論争詩 / Middle English Lyrics and Debate Poetry 松田隆美 10 中英語ロマンス / Middle English Romances 田尻雅士 11 アーサー王ロマンス / Middle English Arthurian Romances 高宮利行 12 神秘主義文学 / English Mystical Writings 久木田直江 13 年代記 / Chronicles 高宮利行 14 事典と科学書 / Middle English Encyclopedias and Scientific Writings William Snell [大沼由布訳] 15 マンデヴィルと旅行記 / Mandeville and Travel Narratives 大沼由布 16 ジェフリー・チョーサー / Geoffrey Chaucer 高田康成・高宮利行 17 ジョン・ガワー / John Gower 小林宜子 18 ウィリアム・ラングランド / William Langland Noriko Inoue [原島貴子訳] 19 『ガウエイン』詩人 / The Pearl-Poet 田口まゆみ・松田隆美 20 中英語の頭韻詩 / Middle English Alliterative Poetry 井上典子 21 ヴィジョンとアレゴリー / Vision and Allegory 松田隆美 22 劇 / Drama・Play・Theatre 土肥由美 23 ジョン・リドゲイト / John Lydgate A. S. G. Edwards [高木眞佐子訳] 24 トマス・ホックリーヴとシャルル・ドルレアン / Thomas Hoccleve and Charles d'Orléans Julia Boffey [高木眞佐子訳] 25 ロバート・ヘンリソンとウィリアム・ダンバー / Robert Henryson and William Dunbar A. S. G. Edwards [高木眞佐子訳] 26 サー・トマス・マロリー / Sir Thomas Malory 加藤誉子 27 ウィリアム・キャクストンと初期印刷本 / William Caxton and Early Printed Books 向井毅 (英語以外の中世イギリス文学) 28 中世イギリスのラテン語文学 / Anglo-Latin Literature 高田康成 29 アングロ・ノルマン語の文学 / Anglo-Norman Literature 松田隆美 30 中世ケルト語圏の文学 / Medieval Celtic Literature 辺見葉子

II. 中世文学研究のコンテキスト

1 中世イギリス文学とフィロロジー 小倉美知子 2 中世イギリス文学と考古学 辺見葉子・伊藤盡 3 中世イギリス文学と神話学、フォークロア 辺見葉子・伊藤盡 4 中世イギリス文学と美術史 松田隆美 5 中世イギリス文学と写本、書物史研究 徳永聡子・高宮利行 6 中世イギリス文学と宗教 赤江雄一 7 中世イギリス文学批評の現在 小林宜子 8 中世主義の系譜 高橋勇 9 現代における中世 小路邦子 10 比較文学の可能性と方法論 小林宜子 11 中世研究とデジタル化 松田隆美・徳永聡子・安形麻理

III. 中世文学の原典に親しむために

1 古英語・中英語を学ぶために—文献案内 石黒太郎 2 文献講読のための中英語入門 家入葉子 家入葉子 3 英語以外の中世語入門 中世ラテン語 神崎忠昭 古仏語 松村剛 古北欧語 John Scahill [伊藤盡訳] 日本語訳で読める、英語以外の中世文学作品 松田隆美・伊藤盡 4 古写本学・古書体学・書誌学 高宮利行 5 中世研究とオンラインリソース 徳永聡子・Andrew Armour [徳永聡子訳] 関連年表 徳永聡子編

田尻雅士『中世英国ロマンスへのいざない—田尻雅士遺稿集』 金山亮太・藤井香子 編 (東京: 英宝社, 2008), 256pp

〈研究(雑誌・論文集等)〉

伊藤 盡 「アドルフ・ノレーン編 フヴィンのショーゾールヴル作『ユングリンガタル,あるいはイングリング列王詩』(中編)(Thjodolfr ur Hvini, Adolf Noreen, ed. Ynglingatal.)」『杏林大学外国語学部紀要』21, (2009), 117-126

池上忠弘「チョーサーの笑い話—『粉屋の話』を巡って(その3)」『ことばの普遍と変容』(Anglo-Saxon 後の継承と変容叢書3) (東京: 専修大学社会知性開発研究センター, 2008), pp.59-64

Mori, Yukie, "The Dragon and the Serpent in Arthur's Dreams in Malory's *Le Morte D'Arthur*," *Studies in Medieval English Language and Literature*, 23 (2008), 55-66

Takahashi, Isamu, "The 'Heroic Quest': Reginald Heber's Arthurian Poems and His Poetic Struggle in the 1810s," *Geibun Kenkyu (Keio Journal of Arts and Letters)*, 95 (2008), 48-69

高木眞佐子 "Arthurian geography: King Arthur's Roman war episode in Malory (1485) and in the

*Chronicles of England (1480)*”, 『杏林大学外国語学部紀要』 21 (2009), 127-135.

多ヶ谷有子 『『太平記』 卷三十二の渡辺綱と『ペーオフルフ』の寵臣アッシュヘレ』, 関東学院大学文学部紀要』 115 (2008), 51-78

Tokunaga, Satoko, “Early English Books (c.1473-1600) in the Keio University Library”, *Geibun Kenkyu (Keio Journal of Arts and Letters)*, 95 (2008), 8-17

徳永聡子 「日吉メディアセンター所蔵の西洋初期刊本：HRP 2008 貴重書展解題再録」『慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学』 54 (2009), 59-80

蛭川久康 「過去の王にして未来の王の眠り、緑につつまれたその小樂園——「アーサー王の帰還」に寄せて」『英語青年』 154(12), 1921 (2009), 678-681

佐伯竜哉 「*Sir Gawain and the Green Knight* におけるガウェインの性格描写」 *Oliva* (関東学院大学人文学会英語英米文学部会) 15 (2008), 67-96

#### 〈翻訳〉

『中英語ロマンス イポミドン伝』 唐澤一友訳, (専修大学出版局: 2009 年), 106pp

リーヴ, フィリップ 『アーサー王ここに眠る』 井辻朱美訳, (東京創元社: 2009), 372pp

#### 〈書評〉

Mukai, Tsuyoshi, <Review> Nakao, Yuji, *Philological and Textual Studies of Sir Thomas Malory's Arthuriad. Studies in English Literature* (The English Literary Society of Japan) English Number 50 (2009), 219-225

#### 〈創作〉

ひかわ玲子 「Lyke-wake Dirge—モードレット誕生秘話/アーサー王宮廷物語」『Rolarious』 10, 39-60 (『アーサー王宮廷物語』 三部作の外伝)

### 中世ラテン

(書誌担当: 西川正二・小沼義雄)

#### 〈原典の翻訳〉

『アベラールとエロイズ—愛の往復書簡—』 (杳掛良彦、横山安由美訳)、岩波書店、2009 年 (岩波文庫)。

逸名作家 『西洋中世奇譚集成—東方の驚異—』 (池上俊一訳)、講談社、2009 年 (講談社学術文庫)。

『放浪学僧の歌—中世ラテン俗謡集—』 (瀬谷幸男訳)、南雲堂フェニックス、2009 年。

ウォルター・マップ 「廷臣たちの閑話集」 (一) 瀬谷幸男訳 『詩と散文』 83 (2009) (東京: 永田書房), 6-16

ジェフリー・オヴ・モンマス 『ブリタニア列王史 — アーサー王ロマンス原拠の書』 瀬谷幸男訳 (東京: 南雲堂フェニックス, 2007), 409pp

ジェフリー・オヴ・モンマス 「メルリヌスの生涯」 (その一) 瀬谷幸男訳 『詩と散文』 82 (2008) (東京: 永田書房), 26-36

ジェフリー・オヴ・モンマス 『中世ラテン叙事詩 マーリンの生涯』 (Vita Merlini) 瀬谷幸男訳, 南雲堂フェニックス, 2009, 145pp

トゥールのグレゴリウス 『フランク史—10 巻の歴史—』 (杉本正俊訳)、新評論、2007 年。

トマス・アクィナス 『君主の統治について—謹んでキプロス王に捧げる—』 (柴田平三郎訳)、慶應義塾大学出版会、2005 年。

レーモン・ダジール、フーシェ・ド・シャルトル他 『フランク人の事績—第一回十字軍年代記—』

(丑田弘忍訳)、鳥影社、2008年。

### 〈文庫・新書化による再版〉

ティルベリのゲルウァシウス『西洋中世奇譚集成—皇帝の閑暇—』(池上俊一訳)、講談社、2008年(講談社学術文庫)。

トマス・アクィナス『君主の統治について—謹んでキプロス王に捧げる—』(柴田平三郎訳)、岩波書店、2009年(岩波文庫)。

ヤコブス・デ・ウォラギネ『黄金伝説(全4冊)』(前田敬作、今村孝、山口裕、西井武、山中知子訳)、平凡社、2006年(平凡社ライブラリー)。

### 〈文法書〉

國原吉之介『新版中世ラテン語入門』、大学書林、2007年。

## その他(中東、東西交流、比較文学など)

(書誌担当:小沼義雄)

### I〈翻訳〉

アル・ハリリー『マカーマート—中世アラブの語り物—(全3巻)』(堀内勝訳)、平凡社、2008-2009年(東洋文庫)。

イブン・ジュバイル『イブン・ジュバイルの旅行記』(藤本勝次、池田修監訳)、講談社、2009年(講談社学術文庫)。

オマル・ハイヤーム『ルバーイヤート』(岡田恵美子訳)、平凡社、2009年(平凡社ライブラリー)。

郭沫若『桜花書簡—中国人留学生が見た大正時代—』(大高順雄、武継平、藤田梨那訳)、東京図書出版会、2005年。

### II〈研究〉

#### (1) 単行本

岡部一興編、有地美子訳『宣教師ルーミスと明治日本—横浜からの手紙—』、有隣堂、2000年(有隣新書58)。

※ ロジャー・シャーマン・ルーミスの父、ヘンリー・ルーミスが1872-1876年間に米国長老派宛に送った書簡の日本語訳、及びその解説。

沓掛良彦『和泉式部幻想』、岩波書店、2009年。

高木昌史編『柳田國男とヨーロッパ—口承文芸の東西—』、三交社、2006年。

千種・キムラ・スティーブン『『源氏物語』と騎士道物語—王妃との愛—』、世織書房、2008年。

山中由里子『アレクサンドロス変相—古代から中世イスラームへ—』、名古屋大学出版会、2009年。

#### (2) 紀要・雑誌論文など

大高順雄「漱石の『坑夫』とゾラの『ジェルミナール』—創作ノートと調査資料—」 in 松村昌家編『夏目漱石における東と西』、思文閣出版、2007年、pp.108-149。

李爽学「明末におけるイエズス会と中世ヨーロッパ文学」、愛知大学現代中国学会編『中国21』(特集:東洋のキリスト教)、風媒社、vol.28、2007年12月、pp.57-78。



## VI. 学会・講演会のお知らせ

日本中世英語英文学会大会

時 2009年11月28日(土)・29日(日)

所 慶應義塾大学日吉キャンパス

逝去された **Derek Brewer** 教授追悼シンポジウムあり。「**Gothic**と現代—**Derek Brewer** 教授の業績を称えて」(講師: 高宮利行・小林宜子・向井毅)

問い合わせ先

**670-8524** 姫路市上大野 7-2-1

姫路獨協大学外国語学部 西村秀夫研究室内

中世英語英文学会事務局

**Tel/Fax: 079-223-1965**

**Email: [jsmes@gm.himeji-du.ac.jp](mailto:jsmes@gm.himeji-du.ac.jp)**

## Ⅶ. 2009 年度年次大会のお知らせ

[日時] 2008 年 12 月 19 日 (土) 午後 1 時より

[場所] 慶應義塾大学日吉キャンパス  
来往舎 (研究棟) 大会議室

[大会費] 1,000 円 (学生無料)

[懇親会] 17:30～ ド・マーレ湘南日吉店  
(日吉駅西口より徒歩 1 分)  
Tel. 045-566-0075

<http://gourmet.yahoo.co.jp/0006978338/>

[懇親会費] 5,000 円 (学生 4,000 円)

## Ⅷ. 会計からのお願い

### 会費納入のお願い

下記のとおり 2010 年度分会費の納入をお願い申し上げます。払込票はこの会報に同封されています。寄付金についてもこちらの払込票をご利用ください。

(郵便振替口座番号)

加入者名 : 国際アーサー王学会日本支部

口座番号 : 00250-6-41865

年会費 : 3,000 円

会 計 : 多ヶ谷有子

### 寄付金報告とお願い

2009 年度の会費納入に当たって、以下の会員の方々から寄附をいただきました。心より感謝申し上げます。

原野 昇	3 口
高木眞佐子	3 口
篠田勝英	2 口
多ヶ谷有子	2 口
中尾 祐治	2 口

日本支部では、一口 1,000 円からの寄付金を随時募集いたしております。ご寄付を希望される方は、年会費払込票に「寄付〇口」とお書き添えの上、年会費とともにお支払い下さい。また大会会場でのご寄付も受け付けております。皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

## Ⅸ. 会員名簿に関するお願い

ご連絡先等の名簿記載事項に変更があった場合は、速やかに事務局までお知らせください。ただし実際に会員に配布される会員名簿に関しては、個人情報保護の観点からそれぞれの事項 (所属・住所・電話/ファックス番号・メールアドレス) を掲載中止にすることも可能です。ご希望がございましたら事務局までお申し出ください。

なお、国際学会会誌の *Bibliographical Bulletin* については、名簿記載事項変更の届出が反映されるまでに一年かかります。悪しからずご了承ください。

## X. 研究発表・シンポジウム企画募集

日本支部では随時、支部大会での研究発表・シンポジウム企画を募集しております。ご希望・ご提案がございましたら事務局までお寄せください。シンポジウム企画は 7 月末、研究発表は 9 月末 を締切のめどとし、時期に従って当該年度または次年度の大会に組み入れて参ります。

**編集・発行**

国際アーサー王学会日本支部事務局  
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45  
慶應義塾大学文学部 高橋勇研究室内  
**Tel: 03-5427-1054**  
**Fax: 03-5427-1578**  
**Email: isamut@flet.keio.ac.jp**  
メーリング・リスト

**king-arthur@ml.hc.keio.ac.jp**

(新規登録・アドレス変更は事務局まで)

学会ウェブサイト

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/iasjp/>

## 訂正のお願い

『国際アーサー王学会日本支部会報』に訂正箇所がございました。関係諸氏には深くお詫び申し上げますとともに、会員の皆様にはお手元の会報をご訂正くださいますようお願い申し上げます。

6 頁 「独文学」の書誌に下記を追加

林邦彦 Stockholm46 の „Ívens saga “ 『早稲田ドイツ語学・文学会』第 16 号  
(2009 年) 41-57 頁

7 頁 「ラブレー」の項

誤： ※ ※付録として～

正： ※ 付録として～

11 頁 「MATSUMURA Takeshi」氏書評第 6 番目

誤： (Textes littéraires français, vol.561)

正： (Textes Littéraires Français, 561)

11 頁 「MATSUMURA Takeshi」氏書評第 9 番目

誤： Droz (Textes Littéraires Français, 567), 2004, 265p.

正： Droz, 2004 (Textes Littéraires Français, 567), 265p.